

## 小諸市長期学校改築計画検討会提言書概要

### 【第1章：小中学校を取り巻く状況】

#### 1-1. 児童・生徒数の推移

	1982年	2017年	2022年	2027年	2037年	17→37年
小学校児童数	4,025人	2,224人	1,962人	1,811人	1,670人	75.1%
中学校生徒数	1,859人	1,100人	1,115人	978人	928人	84.4%

#### 1-2. 学校施設の状況

- ・ 学校施設（RC造）改築までの平均年数≒42年（H23年文科省調査）  
→千曲小以外の5小学校で既に42年を超過した校舎を使用

#### 1-3. 小諸市の財政状況

- ・ 市の一般財源が今後10年間で11億円（≒1割）減の見込み
- ・ 学校施設は各種公共施設の中で最大の34.3%（延べ床面積比率）を占める

### 【第2章：長期的に学校の改築を進めるうえでの基本的な考え方

#### ～長期学校改築計画策定に向けた「たたき台」として～】

#### 2-1. 少子化の進展に対応した小中学校のあり方について

（今後の教育の方向性）

- 子どもに体験させ、考えさせ、判断させ、行動させる仕組みをつくる。
- 時間と人手をかけて、子どもが学ぶ場を学校も市民も共につくる。
- 学年を越え、校種を越え、指導・支援をつなげていく取組みを進める。

#### 【提言1】少子化の進展に対応した小中学校のあり方

未来に生きる小諸市の子どもたちのために、学校教育の変化や多様な子どもの教育的ニーズに対応できる学習環境を整える

#### 2-2. 望ましい小学校の規模について

（望ましい学校の姿）

- ・ クラス替えができ、多くの個性に接することができる。
- ・ のびのびと自分を表現でき、子ども同士の学びがある。
- ・ 教育の変化に対応した十分な教員の確保と質の高い指導が望める。
- ・ 施設設備が整い、安心して勉強できる環境である。
- ・ 安全に通学することができる。
- ・ 活気ある学校行事ができる。
- ・ 個々の子どもに目が届き、様々な子どもの教育的ニーズに対応できる。

【提言2】望ましい小学校の規模

- 1学級…20～30人前後
- 1学年…少なくとも2～3学級

【附帯事項】

小諸市の子どもたちにとって「望ましい学校の姿」の実現のため、市内小学校は再編が必要な状況である。

2-3. 小中学校の配置及び校区について

【提言3】小中学校の配置及び校区について

- 区の中で学校が複数校に分かれることのないよう、学校再編とあわせて通学区の見直しも検討する
- 小中一貫教育制度のあり方についても検討する

なお、学校再編にあたっては通学路の安全確保や遠距離通学に配慮すること。

【第3章：今後の課題】

3-1. 基礎的データの充実と共有

小中学校の整備費用の試算など、精度の高いデータの充実を図り、それを関係者や住民と共有していくこと。

3-2. 全体的な検討プロセスの合意

関係者や住民等と、再編改築の進め方や最終的な決定の手法といった、全体のプロセスについての合意を図り、これを広く共有して進めていくこと。